

シカが森を食べ尽くしてしまう！ 地域が一体となった取組が求められています！

ニホンジカが個体数の増加と分布域を拡大し、全国で森林や農作物への被害が著しくなっています。このような中、箕面森林ふれあい推進センターの活動フィールド、大阪府箕面市の箕面国有林においても、シカが樹木の皮を剥ぎ、下層植生を食べてしまう等の被害が発生しています。このため、森林の生物多様性の衰退が進み、このままでは下層植生のない裸地へ移行すると土壌流出や土砂災害等のリスクも高まることが危惧されています。

この森林に深刻な被害を与えているシカの被害を防ぐため、地域の行政や市民が連携し、一体となった取組が求められています。

！ 箕面の森林のニホンジカによる被害の現状 ！



森林内の低木や下草が食べられてしまいました。
ヤブを好む生き物が棲めなくなります。



植生を食べ尽くしてしまいました。
森林が消え、土壌の流出が心配です。

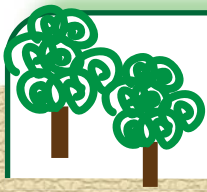


シカが食べない植生だけが残りました。
森林生態系の衰退が進んでいます。

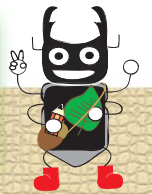


樹皮が剥がされてしまいました。
木が枯れてしまいます。





地域の関係者が一体となって対策に取り組んでいます



箕面国有林では、シカ被害対策を効果的に実施するため、当センターなど行政や市民などで構成する「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会(事務局:NPO法人みのお山麓保全委員会)」において、下記の基本的な4つの取組方針を決め、一体となって対策に取り組んでいます。箕面森林ふれあい推進センターにおいては、個体数管理とモニタリングを担当しています。

① 個体数管理（捕獲）

シカを適切な生息数にコントロール。
当センターが主体となって実施。



くくり罠の設置



くくり罠で捕獲したシカ

② 防護柵の設置

大切な植生を守るための緊急避難的対策。
市民団体が主体となって実施。



市民団体が設置



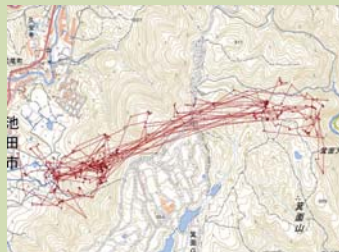
柵の設置により
柵内の植生が再生

③ モニタリング

対策の管理目標として必要なため。
研究機関、行政、市民団体が協力して実施。



シカの生息数と森林植生衰退
の関係を調査



当センターで行った
GPS 装着個体の移動経路

④ 市民への広報・啓発

市民団体が主体となって実施。当センターにお
いても、森林被害と対策について普及活動。



生物多様性研究フォーラム
で当センターから報告



小学校の森林教室で
シカ害対策を学習

トピック

近畿中国森林管理局の「森林のギャラリー」で、シカ害の状況
や対策、ジビエ利用などの情報発信中です！！

